

■平生夙三郎 東京海上保険“中興の祖”。独自の哲学をもち、ブラジルの拓殖移民はじめ多方面に貢献。

ひらおはちさぶろう
薩長同盟・・・1866＝ 美濃国加納藩で、永井肥前守の家臣田中時言の三男に生まれる。

明治維新・・・1868＝ 2歳： 維新で家が没落し、貧困のなかに育つ。

明治6年政変 1873＝ 7歳：藩校{憲章校} (のち加納小学校)に入学。

初の民間工場1875＝ 9歳：

沖縄県編入・1879＝13歳：岐阜中学校に入学するも、

明治14年政変1881＝15歳：中退して上京し、東京外国語学校に入学。

秩父事件・・・1884＝18歳：

帝国大学始・1886＝20歳：東京商業学校(翌年高等商業学校と改名)に入学。旧岸和田藩士平生忠辰の養子となる。

帝国憲法発布1889＝23歳： 帝国議会始・1890＝24歳：高等商業学校(一橋大学)を首席で卒業し、同校付属主計学校助教諭、 大津事件・・・1891＝25歳：韓国仁側海關幣弁、

郡司千島探検1893＝27歳：兵庫県議会で廃校が決議された県立神戸商業学校の再興のためいきなり校長に就任、 日清戦争始・1894＝28歳：*わずか1年で道筋をつけると、恩師からの要請で、経営不振の東京海上保険株式会社に転職。

八幡製鉄始・1897＝31歳： 取締役役会を説得して、 大阪支店を実現させた後、同社の経営悪化の主因となったロンドン支店監督に任命され渡英、

Bushidou・・・1899＝33歳：問題解決の目途をつけて帰国し、 ビア/国産化・1900＝34歳：大阪・神戸両支店長に就任。

教科書疑獄・1902＝36歳：

日露戦争終・1905＝39歳：

東京海上保険を今日の隆盛につながる企業に再生して“中興の祖”とされるに至ると、

韓国併合・・・1910＝44歳：甲南幼稚園を設立して、社会奉仕活動も始め、 大逆事件判決1911＝45歳： 明治天皇没・1912＝46歳：*甲南尋常小学校を創立。私費による育英事業を開始、後に{拾芳会}となる。

ロシア革命・1917＝51歳：両支店長のまま、東京海上火災保険専務となり、扶桑海上火災保険・豊国火災保険の取締役にも就任、 本格政党内閣1918＝52歳：甲南中学校設立。大正海上火災保険専務、 ベルサイユ条約・1919＝53歳：大学設置の構想を発表。 大暴落・・・1920＝54歳：*明治火災保険取締役と、火災保険業界から関西財界の指導者になって行く。 原敬首相暗殺1921＝55歳： 水平社結成・1922＝56歳：大阪ロータリークラブの創立にチャーター・メンバーとして参加し、理事に就任。 関東大震災・1923＝57歳：甲南中学校を廃止して、七年制の甲南高等学校を設立。早くから日本人のブラジル移住にも関心を抱き、 護憲三派圧勝1924＝58歳：欧米漫遊に出、初めてブラジルを訪問、 治安維持法・1925＝59歳：帰国すると、社会奉仕活動に専念すべく、東京海上火災保険を辞任して、 円本時代始・1926＝60歳：第二代甲南学園理事長に就任。 金融恐慌・・・1927＝61歳：兵庫県教育会会頭に就任。 共産党事件・1928＝62歳：大阪自由通商協会常務にも就任し、自由通商論を各所で発信。 世界恐慌・・・1929＝63歳： 海軍軍縮条約1930＝64歳：カナモジカイの会員でもあり、この年の講演をもとに「漢字廃止論」を出版。 満州事変・・・1931＝65歳：甲南病院を創設して理事長、海外移住組合連合会頭になる一方、更生計画が難航していた川崎造船所(川崎重工業)和議整理委員を委嘱されると、

国際連盟脱退1933＝67歳：ブラジル移民25周年。甲南高等学校校長に就任。日伯中央協会創立理事。自ら無報酬の社長に就任して、 芥川直木賞始1935＝69歳：明治火災保険を退任。わずか2年で再生させると、ブラジルが移民制限を始めたため、経済的貢献によって移住を確保しようとする広田弘毅首相からの強い要請で、訪伯経済使節団長としてブラジルを訪問。夫人同伴で国賓待遇を受け、ブラジル共和国大統領よりコメンダトール勲章。今日に続く日伯友好の礎を築いて帰国後、ブラジルの国情について御前講演、海外拓殖委員会委員となり貴族院議員に勅選される。

二二六事件・1936＝70歳：*広田弘毅内閣で文部大臣に就任すると、全ての企業の会長を辞任。貴族院本会議で“漢字廃止論”について質問され、’現在でも漢字廃止を信念としている’ことをあきらかにした。口述の「私は斯う思ふ」出版。

日中戦争始・1937＝71歳：勲二等授瑞宝章。如水会理事長。臨時物価対策委員会委員、文政審議会委員、教育審議会委員。日本製鉄会長。ブラジル拓殖事業を民営化した日南産業社長。

健保+総動員 1938＝72歳：鉄鋼連盟会長。甲南高等学校校長を退任し、北支経済委員会委員長として北京に赴任、 第二次大戦始1939＝73歳：帰国し、再び甲南高等学校校長に就任。大日本航空株式会社設立委員、海外拓殖調査会委員。茂山鉄鉱開発会長、日鉄鉱業会長。ブラジルよりグランデ・オフィシェ勲章。

大政翼賛会・1940＝74歳：如水会理事長に再任。日本製鉄会長から社長となり、大日本産業報国会会長に就任。。 日米開戦・・・1941＝75歳：日鉄鉱業会長を辞任して社長に就任後、日本製鉄社長とあわせ退任し、鉄鋼統制会会長、日本商工会議所顧問、日本経済連盟会顧問に就任。

・・・1942＝76歳：重要産業統制団体協議会会長、勲一等旭日桐花大綬章。 創価学会検挙1943＝77歳：如水会理事長第二期任期満了につき退任。枢密院顧問官に親任。 年金+総武装 1944＝78歳：甲南高等学校校長を退任し、 敗戦・・・1945＝79歳：没した。

渋沢栄一記念財団「実業家とブラジル移住」